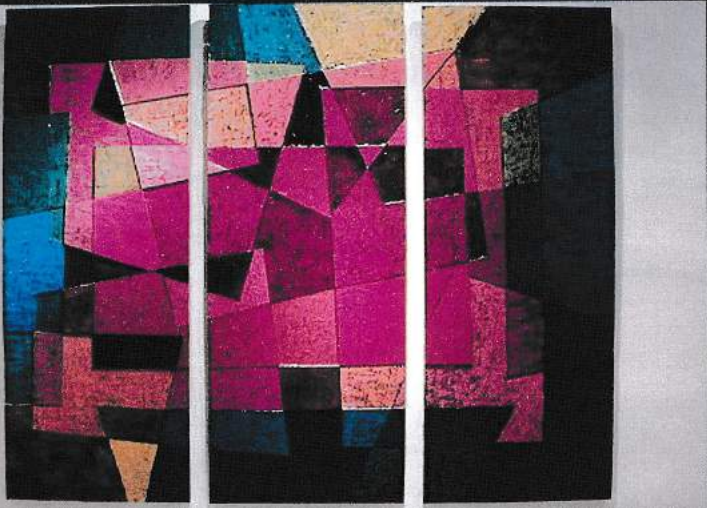




「soutrance」



「時錐 (日時計)」



「影響しあう仲間達」



「JUNE11~16」



NO.41 2003.9



社団法人 日本建築美術工芸協会

協会設立15周年を迎えて



社団法人日本建築美術工芸協会会長
芦原建築設計研究所所長
ASHIHARA YOSHINOBU
芦原義信

当協会が文化庁所管の社団法人として設立以来、本年で15周年を迎えますが、発足は昭和43年になります。当時建築家、美術家及び工業家の有志が「新しい建築のなかに美術・工芸・造園などの造形作品を取り入れ、人間性豊かな環境づくり」をするために相集い「建築美術工業協会」（任意団体）を設立し活動を始めました。

その間、公共建物建築の総工費の何%かを芸術的環境づくりに充てる（1%システム法）という法制定運動や建築・美術・工業等々の分野間交流を続けて参りました。しかし、実質的には、関係分野のより一層の強力な提携・情報交流が必要であることを痛感し、また前記の1%システム法問題を乗り越え新しい時代（21世紀）における環境づくりを一層積

極的に推進することいたしました。そのために従来の建築美術工業協会の組織変更をはかり、文化庁のご指導をいただき「社団法人 日本建築美術工芸協会」を設立し、芸術的環境づくりに関心ある方々の参加を得て、豊かな社会的環境の創造と保存に努め、優れた芸術的、文化的環境の向上に貢献するべくつとめてまいりました。

その一環として毎年順次、全国の主要都市でその土地の風土と景観を主テーマとして多くの方々の参加を得て開催いたしました参りましたシンポジウムがあります。開催14回を重ねております。また、日本建築美術工芸協会賞（AACAA賞）を設け、優れた社会環境を創った作品を毎年表彰して参りました。特別賞を含め26作品を数えております。

そして、毎月1回を定例として有識者のお話を聞くaacaトークを現在144回実施いたしました。その他に各委員会が中心になり、情報交換、会員相互の親睦等併せ諸活動を進めているところです。また本年は15周年記念事業として懸案の建築・美術・工芸、三分野合同展を江戸東京博物館を会場として開催、保存再生された日本工業倶楽部会館を会場に「歴史的建造物保存」をテーマにシンポジウム開催を企画いたしております。

各種事業の実施に加え更に文化と芸術の向上を目指して幅広い活動を進めて参りたいと考えております。

会員諸氏はじめ関係者の更なるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



aaCa 15周年に思う



aaCa副会長
近代美術館館長
KATOU SADAOU
加藤貞雄

15年の間の社会の変化は大変なものだ。バブルの消滅とともに、みんな元気を失ってしまった。経費削減、人減らし、合併。私が関係する美術館の世界も、予算の減少、入館者減の悪循環が続いている。わがAACaも会員減、会費収入の落込みが大問題だ。

いま必要なのは、みんなでAACaの魅力を作り上げる気持ちになることだと思う。建築、美術、工芸をつないだ唯一の団体だからこそ、垣根を越えた交流、連携、勉強、発想が、ここか

ら生まれる可能性がある。いまの時代だから、ますますそれが期待される。

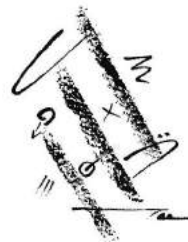
そのためには、たんなる異種合同の親睦でもってよしとしてはならない。業務や作品を知り合い、率直に意見、批判を交し、教え合う輪を広げることによって、会員でいることのメリットを享受できる団体に育てほしい。その輪の中で、営業が生じてもかまわない。AACa15周年の記念事業の展開が、その第一歩になるように切に願っている。



aaCa副会長
(株)坂倉建築研究所最高顧問
SAKATA SEIZOU
阪田誠造

建築、美術、工芸それぞれに、団体が多く在り、社会や行政等に対する活動、職能の研鑽を行っていますが、専門職能が隣り合うプロフェッショナルが一つの団体を組織している、当協会のような例は少ないでしょう。ただ珍しいだけでなく、わが国では、建築、美術、工芸の関係が、人々と空間・時間を通して、王侯貴族ばかりでない、多様な生活文化の環境に、高レベルの多彩な総合を歴史に刻んできた、その延長に当協会の存在意義があるのではないのでしょうか。

今年は社団法人認可15周年、文化庁所管の社団法人であることに、意義があります。芦原会長は早くから、建築の文化的価値の重要性を主張されました。歴史的文化遺産以外の建築が、文化の対象として認識されることがない、今の社会に対して、当協会会員の研鑽と社会への働きかけで、この会がさらに発展することに繋げたい。15周年を迎えて、もっと多くの会員の参加と交流が促進することを大いに期待したいと思います。



aaCa副会長
彫刻家
(前東京芸術大学学長)
SUMIKAWA KIICHI
澄川喜一

昭和20年敗戦、日本中の都市が焼け野原になった、あれから58年、当時の悲惨な街の風景は今や跡かたもなくなった。

半世紀余で、よくもここまで街が生き返った。

しかし、その反面、経済復興のみがあまりにも急がれたため、何か忘れて街づくりが進んでいることにみんな気がついた。潤いのある街づくり、人間らしい心のある街づくりが忘れられていたのではないかと云われはじめ久しい。

潤いがあり、心ある街づくりのためには建築は勿論のこと、

美術や工芸が心に染み渡るような美しい交響曲となることが望ましい。

そして日本らしい、世界に誇れる街づくりを求めてAACaは会員諸兄姉氏のご尽力のお陰で、めでたく15周年を迎えることが出来た、が、これからが理想に向う新しい力を発揮しなければならない節目でもある。

大いなるご理解とご支援ご協力を心からお願い申し上げご挨拶としたい。



協会15年の思い出



aaca理事
GKデザイン機構会長
EKUAN KENJI
栄久庵憲司

会員備忘録十五年

発会して間もなく池田武邦氏から会員になるよう勧められた。海兵の先輩である彼の勧めだけに、意義のある会だということに何等疑問をもっていなかった。寧ろ前衛を任じている彼のこと、今までにない特別の主旨をもった会に違いないと思った。

七〇年の大阪万博以来、ストリートファニチュアの専門を任じていただけに都市との関係かと思っていたので、会の名称を聞いてその長いのびびっくりした。落語にある「寿限無寿限無」といった感じだった。

私にとってのインダストリアルデザインは、建築・美術・工芸のどの分野にも入っていない。そんな訳で多少の抵抗を

感じてはいたが、池田氏の豪快な表現に吸い込まれてしまった。「バラバラの分野を引っかき回してつむじ風を起こし、新しいかたちの大風を吹かすんだ。細かいことなどごちゃごちゃ言わない。」という語気に、精神的にも肉体的にもすっかり魅きつけられ、爽快な快感を受けた。

芦原会長とは一九五五年ワックスマンゼミの折、初めてお目にかかった。ハーバードから帰国されたばかりで夢一杯、そして私はインダストリアルデザインに夢中だった。ところが夢中になると前後左右が見えなくなる。日本中がそうだった。一五年前のそんな時、バランスのいい、控えめで明るい芦原義信のまさに出番だった。太陽のもとでは総ては一つに

つながっているというスローガンのもと、関係業者にまで文化事業のパートナーシップを求めた。これは今まで日本にないデザイン運動であり、文化運動だった。色々な人に会えるのもこの会ならではである。しかも使命感が同じなのがいい。

私はインダストリアルデザインの専門化に生涯を費やしてきたが、芦原会長のおかげで専門のかたくなな淵がとけはじめ、気持ちも広々してきた。おおらかに会の名を定めてくれた会長はまさに偉大だ。時が経てば必ずや大木になる。池田氏に感謝。

第11回 '99広島 aaca 景観シンポジウム

「瀬戸内文化と景観」

JAPAN ASSOCIATION OF ARTISTS CRAFTSMEN AND ARCHITECTS

1999年10月28日(木)
午後1時～4時30分

広島県民文化センター
広島市中区大手前1-5-3 Tel. 082-245-2311

oaca
社団法人 日本建築美術工芸協会

第12回 2000奈良aaca景観シンポジウム

古都と景観

2000年7月27日(木)
13:30～17:00
なら100年会館中ホール

主催：社団法人 日本建築美術工芸協会
共催：奈良県、奈良市

協賛：文化庁、社団法人建築学会、社団法人美術工芸協会、社団法人建築士会、(社)日本建築協会、社団法人建築学会、社団法人建築士会、(社)日本建築協会、社団法人建築学会、社団法人建築士会、(社)日本建築協会

TM : 03-5467-7999 Fax : 03-5467-1638

oaca



AACA理事
日本大学名誉教授
OHUMI SAKAE
近江 栄

AACA賞（日本建築美術工芸協会）の独自性について

後掲の12回に及ぶ受賞作品の一覧表から読みとれるのはこの顕彰制度の独自性として、「建築と美術（アート）」のコラボレーションの成果に評価基準がおかれていることが明示されていることである。

曰く、「建築家・美術家・工芸家、その他の人々の連携と協力によって芸術的環境を創造した業績」を選定の対象とするという。

建築界にはすでに評価が定着しているBCS賞（建築業協会）日本建築学会賞作品賞などはメディアを通してその存在は衆知されている。

すでに今回は12回の実績を積重ねてきたAACA賞は後発とはいえ賞の趣旨に適応した優れた作品を公募発掘し複数の審査員が現地を訪れ厳正な評価をした

うえで優秀作を選定し顕彰してきた。

こうした努力がようやく注目され、メディアを通して広く紹介されるまでに育成され、あらたに協会発足15周年を期に、とくに若手・新人作家に焦点をしばった芦原義信賞（一人）が加えられたのも喜ばしい経緯であった。

ところでこうした「建築とアートとのコラボレーション」に対する評価は、ヨーロッパ先進諸国の中には国家的な公共建築には芸術家の協力を義務づけ建築総工費の数パーセントを予算化することをすでに法制化しているところもあるという。

しかしわが国でもすでに一九六〇年代に行われた京都国際会館の公開設計競技の際に応募要項に総工費の二%を美術との協同の費用に割当てられることが明示

され、実施された先般的事例があったことが記録されている。

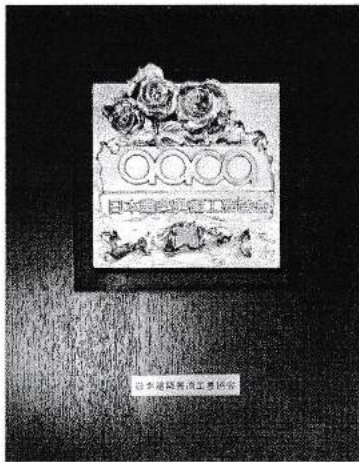
この火つけ役となったのはコンペの審査員の一人建築家佐藤武夫の委員会での積極的な提言となった「パリのユネスコ本部の場合は総工費の二%だったという」示唆に導かれ、施主側の建設省も納得したという経緯を直接伺ったことを覚えて

いる。その後わが国では最高裁判所のコンペの際にも京都の先例に倣ったことで注目されたが、何故かバブル崩壊後は美術（アート）との協同の成果に対する評価が継続して顕彰されることはなかった。

こうした低迷期を経てようやく一九九一年度から芦原義信を中心に後掲制表に揚げられる審査員らの協力によってAACA賞が誕生した経緯がある。



QACA 賞12回の受賞作品



(社)日本建築美術工芸協会賞(AACA賞・芦原義信賞受賞作品)

1991年度

第1回 AACA賞

東京都多摩動物公園昆虫生態園昆虫ホール

株式会社日本設計 上哲男

AACA特別賞

兼六園周辺文化ゾーン 石川県知事中西陽一

選考委員：嘉門安雄委員長 會田雄亮委員 栄久庵憲司委員

宮本忠長委員 小林治人委員 三輪正弘委員

第2回 AACA賞 (2点)

能登島カルチャーパーク

石川県知事中西陽一 株式会社毛綱毅口廣建築事務所

北御牧村芸術むら公園結いの高欄道

長野県北御牧村村長小山 治 保科豊巳・ベルグ環境設計

選考委員：嘉門安雄委員長 會田雄亮委員 栄久庵憲司委員

宮本忠長委員 小林治人委員 三輪正弘委員

1993年度

第3回 AACA賞 (2点)

鹿児島市みなと大通り公園モニュメント(悠雄)並びに一連の彫

刻作品 速水史郎

Villa Cypress 木村誠之助

選考委員：内井昭蔵委員長 會田雄亮委員 池田武邦委員

栄久庵憲司委員 近江 栄委員 仙田 満委員

1994年度

第4回 AACA賞

門真市南部市民センター森林浴体験室「森林回廊」 土屋寿満

AACA特別賞

生活工房・サッポロファクトリー

サッポロファクトリー・デザインチーム

選考委員：内井昭蔵委員長 會田雄亮委員 池田武邦委員

栄久庵憲司委員 近江 栄委員 仙田 満委員

1995年度

第5回 AACA賞

街路、広場照明とその造形の一連の作品 永原 淨

AACA特別賞 (2点)

ファーレ立川 住宅・都市整備公団東京支社、アートプランナ

ー北川フラム

JTビル 株式会社日建設計(亀井忠夫)

選考委員：内井昭蔵委員長 會田雄亮委員 池田武邦委員

栄久庵憲司委員 近江 栄委員 澄川喜一委員

1996年度

第6回 AACA賞

長岡平和の森公園 上山良子

AACA特別賞 (2点)

さっぽろホワイトイルミネーション

さっぽろホワイトイルミネーション実行委員会会長薩 一夫

茅ヶ崎公園プール 坂倉建築研究所 西野康造 椎名啓二

選考委員：内井昭蔵委員長 會田雄亮委員 近江 栄委員

澄川喜一委員

1997年度

第7回 AACA賞

三井海上千葉ニュータウン本社ビル他、一連の建築における空間

造形 片山利弘 株式会社日建設計

AACA特別賞 (2点)

門入の郷(mon-nyu no sato) 門入ブリッジ・樺の城・冒険の

舞台 多田善昭 香川県大川郡寒川町

広島女子大学 株式会社石本建築事務所、広島県広島女子大学

シーズ環境開発企画

選考委員：内井昭蔵委員長 會田雄亮委員 栄久庵憲司委員

近江 栄委員 澄川喜一委員

1998年度

第8回 AACA賞

モエリ沼公園 札幌市 アーキテクト・ファイブ

AACA特別賞

豊橋東口駅前広場 日本技術開発+デザイングループ

選考委員：内井昭蔵委員長 會田雄亮委員 栄久庵憲司委員

近江 栄委員 澄川喜一委員

村井 修ゲスト選考委員

1999年度

第9回 AACA賞

SPRINGTECTCRE 播磨(播磨科学公園管理施設)

兵庫県企業庁都市整備課+遠藤秀平建築研究所

選考委員：内井昭蔵委員長 會田雄亮委員 栄久庵憲司委員

近江 栄委員 澄川喜一委員

村井 修ゲスト選考委員

2000年度

第10回 AACA賞

「潜在する音の海-Wave Wave Wave, Umi-Tsukushi」、ラフ

レさいたま「ウィンド・ノーターション」、種足ふれあいの森

サウンド・モニュメント、国営越後丘陵公園「冒険の丘」フォー

リーサウンド・オブジェ、棚倉文化センターウォースクリーン、

の丘葬斎場「風のベンチ」サウンドインスタレーション等一連の

サウンドスケープデザイン

庄野泰子+office shono

AACA特別賞 (2点)

鳥取県立フラワーパーク アーキテクトファイブ

明和町(群馬県)町制施行記念モニュメント

日高單也、山本 誠、小野行雄+群馬県明和町、(株)近代造形

(敬称略)

選考委員：内井昭蔵委員長 會田雄亮委員 栄久庵憲司委員

近江 栄委員 澄川喜一委員

松本哲夫ゲスト選考委員

2001年度

第11回 AACA賞

善き牧者愛徳の聖母修道会 本部修道院

創作和紙作家 堀木工リ子+株式会社竹中工務店

審査員奨励賞(4点)

霞城セントラル やまがたアートチェアプロジェクト

山形建設工業団地協同組合デザイン開発機構

株式会社環境計画研究所

その他、制作に関わる子どもたち、職人、関係者の方々

「星祭り」一銀河を渡る舟アート計画およびオブジェデザイン

一西島リバーサイドビル団地

都市基盤整備公団関西支社+AD&A 竹村楊子 駒田哲男

青森県男女共同参画センター アビオあおもり 内部イベントホ

ール外側壁面(3面)

oh-AOMORI RINGO・YAMA・YANE

atelierA+板画イタエ 秋田昌子

パストラルコートと街の修景

柴田知彦・柴田いづみ+エスケイム設計計画事務所

選考委員：内井昭蔵委員長 會田雄亮委員 栄久庵憲司委員

近江 栄委員 澄川喜一委員

松本哲夫ゲスト選考委員

第1回芦原義信賞

アートガーデン 竹中工務店広島支店設計部 川北 英、門谷和雄

第12回AACA賞

丸の内ビルディング代表 (株)三菱地所設計

奨励賞

東京都立つばさ総合高等学校ウォールグラフィック "Wisdom on

Wall" 葛西 薫+(株)アンドーギャラリー+(株)山下設計

2002年度

第1回芦原義信賞・第12回AACA賞 選考委員

近江 栄委員長 會田雄亮委員 加藤貞雄委員 小林治人委員

澄川喜一委員 松本哲夫委員

北川原 温ゲスト審査委員 平倉直子ゲスト審査委員

トークレジメ I



パート・ド・ベール作家
UCHIDAKUNITARO
内田 邦太郎
千葉県長生郡一宮町一宮6983-4
TEL 0475-42-1110

『建築・美術・工芸に求められる無用性』 『パート・ド・ベールによる造形と技法』

イギリスの小説家、オスカー・ワイルド著「ドリアン・グレイの画像」の序文に、「無用の物を作る唯一の口実は、人がそれを熱烈に賛美すると言う事である。芸術は全て無用の物なのだ。」との一節がある。建築は常識的に見て有用なものと考えねばならないが、有用性のみを追求しても全く味も素っ気も無い物が出来上ってしまう。そこに使う者の感性を心地良く刺激して、使い勝手も良く、見ても美しい空間も併せ持っている事が望ましい。

工芸も、物が有り余っている現代では、物の質（クオリティー）や機能やスッキリした形を求められた時代はもはや過去の事と成っている。今日では精神性や心のゆとりという面の方が重要視されている。平たく言えば、絵画や彫刻や工芸も癒しグッズなのです。

新しいライフスタイルにのっとった自己主張とセンスにより、自分の感性に合った物を選ぶ事が、とりもなおさず自己表現の手段と成り得るのです。今や与えられる価値感では無くトータルにコーディネートをして、自分の身の周りの物を整える事で、誰でも創造の世界に参加して行けるのです。アーツ・アンド・クラフト愛好者の創造意欲を刺激するに足る素材としての作品を提供していく事が、私の使命だと思っています。又、あらゆる作品に対する評価を的確にする為に、自分のコンセプトを持ち、自分自身の「物を見る目」を養う為に、優秀な作品を見て、触れて、使う事で、自分独自の価値基準を持つ事です。自分の作品に対しても客観的に評価を下して、どこが悪くてどうすれば良い物に換えて行けるのかの方法を見い出せるはずだから。そうで無ければただの自己満足でしか無いでしょう。又創造活動に於ては、自分の専門分野の中だけに閉じ籠らずにあらゆる事に興味を持って取り組む事で、専門分野の仕事にも巾と膨みが出て来るでしょう。

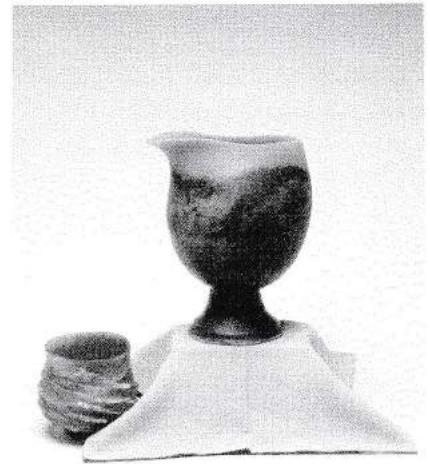
有名な建築家達は専門以外の分野で豊かな表現と創造活動を巾広くこなして来ています。

例えばル・コルビュジェは、スイスの時計師の父とピアニストの母との間に生

まれ、少年時代は時計の彫刻師の徒弟に成り、後に地方の美術学校に入って絵画とデッサンを学んでいる。その時期に美術教師からあらゆる時代の、あらゆる国の美術の傑作を書物で学んでいる。上級生時代に住宅三件を設計する機会を得て、将来の方向が決められたと言う。又修業時代にはよく旅行をして、地中海地方の民家や民芸を熱心に見て歩いた様で、そういった様々な経験を積む事に依って後に、都市計画家、画家、著述家、家具設計家、詩人と多方面で活躍出来る基礎を築いていたと思われる。フランスに渡り建築家ペレのもとで初めて鉄筋コンクリートを構造材料として用いて近代建築に目覚めている。ピロッチェ（杭柱）ルーバ（日よけ）ファサード（全面ガラス）モデュロール（黄金比標準尺）等は、コルビュジェが考え出したものです。コルビュジェと対象的なのが、アメリカ・ウィスコンシン州の田舎に生まれた、フランク・ロイド・ライトだが、母親は教育者でドイツのフレーベルの影響を受け児童学校を設立し、ライト少年には結晶体形の積木や貝がら等を玩具として与えて、造形の訓練をさせていた様です。

日本では建築を学ぶには、東大、早稲田、東工大、芸大等の建築科に入学して学ぶのが一般的だが、程んどが理工系の中に建築科を置いている為、絵画、彫刻、工芸の勉強が併わせて出来ない事と、芸大の様に同じキャンパスにそれらの科を持っていても、カリキュラムに取り入れられていない点である。もっと感性を磨く事を経験吸収しないで、構造力学ばかり学んでも、美しいものを創造する事は出来ないと思う。

約二五年程も以前の事だが、京都会館で、世界クラフト会議が開かれ、ガラス作家として参加したのだが、建築分課会に出席した。その時アメリカの建築家の一人は今、陶芸作家の美術館を設計中だが、機能や用途のあらかじめ決っている件が多く、あくまで建築は器であって中身が主役で有る事を強く主張し、又オランダから参加した人は、オランダには当時から逆登って二五年前から、国営のコーディネート組織が有り、スタッフ



は10人程だが、世界中の建築家、画家、テキスタイルデザイナー、工芸、彫刻、造形家のリストや作品データ資料が豊富に揃っている図書館を持ち、その組織で扱うプロジェクトは、最初の段階からそれに関係する全ての作家、デザイナーと協議設計をして進めて行く。又その組織には総工費の10%が入る事に成っていて、組織の運営を賄っていると言う事であった。その組織が設立されて今年で約50年にも成っている事に成るが、日本にはまだその様な組織の存在は聞いた事がない。

又アメリカでは各州法によって異なるが、建築物の総工費の1%~2%は必ず建築に附随する装飾物（絵画、レリーフ、彫刻等）を設置しなくてはならない事に成っていると言う。

日本の場合は建築物が出来てしまっただけから万が一予算に余裕が出来た時のみ、その建築家の個人的に付会いのある造形家に依頼するケースが多い。当然ちぐはぐな組合せとなる。

日本でも早急に、建築物に附随した造形物を必ず設置しなければならない様、法制化されれば、もっと国際的にも文化国家の仲間入り出来るもと思われるのだが。

これらの事は、建築に限らず、演劇、映画、文学、工芸に付いての国の製作費の援助組織や、地方地場産業の職人養成施設の充実等まだまだ遅れている面は多々有る様に思う。

トークレジメⅡ



(株) アブル総合計画事務所
代表・都市環境デザイナー

NAKANO TUNEAKI
中野 恒明

東京都文京区湯島4-2-1杏林ビル
TEL03-3816-5831

門司港地区の再生と都市環境のデザイン

九州の最北端、門司港（北九州市）の都市再生に関わり15年を経過した。その間の経緯は多くの雑誌などに報道されてきた。今でも地価は上昇傾向、今年の観光客は年間300万人超が確実視、継続的な都市デザインプロジェクトの蓄積が新たな需要を誘発する、その経済効果連鎖など、都市再生の模範事例となりつつある。

しかし計画設計者の立場から言わせていただければ、幾つかの幸運に恵まれたことに帰結する訳で、次の3点に要約してみたい。第一には、門司港地区の有する素晴らしい資産が存在していたこと。第二には行政と計画者との連携である。第三には市民の熱い思いがある。

環境資産としては、関門海峡の美しい自然と、それを背景にした明治・大正・

昭和初期の建築群や土木構造物が、市街地の一角にあたかも凍結保存されたかの状態で存在していたこと、しかもそれは当時の意匠・技術の集大成とも言うべき作品群である。また明治22年開港の第一船溜まりの水面埋立を計画変更した現市長の英断、これも忘れてはならない。既に国の港湾計画では埋め立てありきだったのである。

それとあわせ市長自らが、新進気鋭の計画設計者を選定せよ、との檄を職員に飛ばしたこと、これによって私との縁が始まる。私も横総合計画事務所から独立したばかりで、市長の「門司港の再生には時間がかかる」との一言で、実績よりは可能性に懸ける、この方針があったればこそである。若さゆえに行政の担当者とも忌憚ない意見交換ができたと思う

し、行政側と計画者の二人三脚が今も続いている。

第三の市民の思いはホームページで「門司港レトロ地区」を検索されればお判りになると思う。計画初期に提案した、街づくりは「ハード」と「ソフト」の連動が不可欠、これが実現されつつある。赤レンガ倉庫跡地マンションの景観論争を経て、著名建築家の設計による展望所併設の超高層住宅の実現、市民との対話によるライトアップ計画、そして市民ボランティアによる観光ガイド、アート村の開村、など多岐に及ぶ。

その中で幾つかの民間の歴史的な建物が解体の憂き目に遇っている。それを市民と行政、私たち「街医者」が協同して保存を声高に訴える。まだまだ再生途上にあるのは事実である。この継続的な活動こそが、本来の都市デザインの姿なのかも知れない。



時代の華一輪



aaaca理事・会員交流委員会委員長
東陶機器(株)顧問
YOSHIMURA TADAO
吉村 忠雄
東京都港区虎ノ門1-1-28
TEL03-3595-9694

トイレにも変遷あり

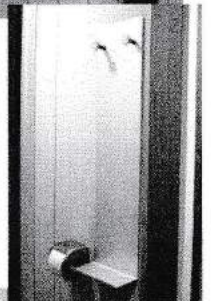
時代の華一輪とまでは言い難いがオフィスのトイレにも時代の流行や変遷がある事をご存知だろうか。トイレは百年一日の如く、四角い箱の中に白いタイル壁、衛生器具はいつか何処かで見た形のイメージがあるのではないか。車やファッションの様に流行のレンジが早いと気が付くが、10年20年のサイクルで変化して行く事には気が付かないものである。又、よそ様のトイレを使う事が少ないと云うハンデもある。たまたま私はTOTOと云う会社で給料を頂いていた為、オフィスのトイレの変遷に特別興味が深い。トイレにも流行があるのである。特に、最近オフィスのトイレは仕事の憩いの場とし

ての役割もあり、注目されて来ている。去年9月にオープンした新生「丸ビル」のトイレスペースは四角ではない。トイレから外の景色が見え自然光が差し込むような設計になっている。洗面器は壁掛け型で、鏡は個別型、洗面器2台にジェットタオル1台・小便器は壁掛けの自動洗浄、便器は壁掛けの洋風、便座は擬音装置付のウォシュレット。トイレがあれば良いと言う時代から比べると嘘の様である。私が、TOTOで営業をしていた昭和36年の和洋風便器の出荷比率は和風86%・洋風14%であった。昨年では、和風6%・洋風94%と全く逆転した。オフィスでも自宅でも和風便器の影は薄くなりつつある。都市基盤整備公団が洋風便器を採用したのは、昭和30年代後

半からで便器のロータンクに洋風便器の使い方のラベルを付け出荷したものである。先日都内の某小学校の校長先生にお会いした時、云われた事がある。ピカピカの一年生が入学して来た時、一番最初に教える事は和風便器の使い方だそうである。和風便器を初めて見る一年坊主は便器の金カクシに座ってしまうらしい。まだ小学校では、和風便器が主力と云う事で笑えない話である。最近街並みや新築オフィスの散策が流行している様であるが、その際、是非怪しまれない程度に、トイレにも足を延ばして欲しいと思っている。大変臭い話で申し訳ない、但し最近のオフィスのトイレは決して臭くないのでご安心を。

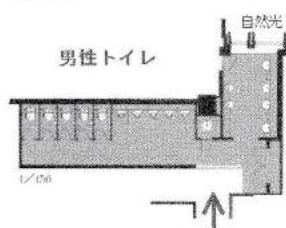
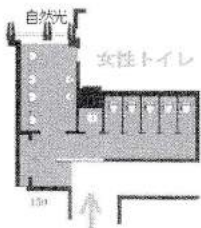


<建築概要>
建築主 三菱地所(株)
設計・監理 (株)三菱地所設計
規模 地下4階、地下37階、塔屋2階
延床面積 約160,000m²



- 14 F 平面図 -

入口から一旦Uターンしてトイレブースに入る。廊下からは自然光の明るさだけが感じられ、内部の様子がうかがえないように配慮されている。男女とも一番奥のブースは手すり付き。



右上コーナーの窓から入る自然光がトイレ入り口のフロストガラスを透して廊下まで採光をもたらす。用を足すだけでなく、仕事から解放される気分転換の場所としての心地よさが追求される。

時代の華一輪



saca事業委員
インテリアアーキテクト
(株)イリア/KAJIMA彫刻コンクール幹事長
TORAYA TADASI
厩屋 正
東京都港区赤坂6-5-13
Tel 03-5561-2056

「アートと建築空間の関係性」

—昨年1月にaacaトークの会で「アートが空間をひらく」のテーマでアートと建築空間について、語った。今回はその②として、その後の私の活動について記す。

前回「建築家はアートが置かれることを考えて設計しているのか？アーティストは置かれる空間を考えて作品を創っているのだろうか？」と書いた。このことが常に私の頭をもたげている。—昨年暮に行った福山での某新聞社の最新のITによる印刷工場の建設に当って、社のブランドイメージをより深く社会に発信する為に、建築とアートの協調を旨に、地元出身及び在住の若年作家によるコンクールを行った。この時感じたことは上述の通りで、作家は自分の作風を守るが由に、

施主の企業理念及び、置かれる場所の空間意識が少いのではないかと思われたことです。

この6月に建築会館において会員7人の彫刻家、造形作家による第7回アートパラダイス展のプロデュースを行った。昨年の展示会の反省をしつつ、約1年間かけて、協同展の意義、目的、効果、展示のあり方等を話し合い、各自がどう作品を造っていくか、新しいチャレンジを試みた。それぞれに反省点はあるが、各作家は新たな挑戦にいどみ、今までにない結果をもたらしたことに、少なからず満足感が得られたことは、今後の彼等にとって、示唆を与えるものであった。ここで私が作家と常に話してきたことは、作品を設置する建築空間との関係性であった。作品を置くことにより如何に楽しい空間にすることが出来るかであった。

作品はそれ自体が個有の質を持っており、その良さをより強く引出し、設置する場所と語り合える関係性をつくり出すかを考えなければならぬと考えた。

2000年の夏にイタリアのフィレンツェを訪れた際、街中で安田侃氏の彫刻展が行われており、作品がルネッサンスの建物に囲まれた空間と心地良く呼吸をしているのを体感し、スゴイと感じいった。そしてフィレンツェを後にしピエトラサンタに行った折、ドゥオーモ広場でポテロの鑄造の作品が5点置かれているのを見て、以前彼の作品をロサンゼルスの大通りで見た時は感激したものが、イタリアの街中では何かスッキリしないものを感じ、彫刻と空間との係りについて強く意識させられた。



第7回KAJIMA彫刻コンクール



第7回アートパラダイス展

トピックス

総会報告

社団法人日本建築美術工芸協会
平成15年度通常総会

1. 開催日時 平成15年5月23日(金)
午後5時30分～6時30分
2. 開催場所 東京都港区芝5丁目26番20号
建築会館1階ホール
3. 議案 議事録署名人の選任

- 第一号議案 平成14年度事業報告に関する件。
第二号議案 平成14年度収支決算書・財産目録及び貸借対照表に関する件。
第三号議案 平成15年度事業計画及び収支予算に関する件。
第四号議案 任期満了に伴う新役員選出の件。
その他の議案

4. 議事の経過

(1) 中島昌信専務理事より定足数の確認の報告があり平成15年度総会は成立した。総会次第に基づき、芦原義信会長より挨拶があった。芦原会長挨拶要旨：本日は、平成15

年度社団法人日本建築美術工芸協会総会にお忙しいところご出席を賜りありがとうございました。協会も社団法人運営となってから15年目を迎えることができました。年々協会の目的とする建築・美術・工芸に携わる人達と関連して文化振興の向上に各事業を実施して参りました。特にシンポジウムの実施については毎年行っております。本年度は東京で開催を予定いたしております。是非会員多数の御参加を望むものであります。今後も益々会員の拡大を図り協会活動の活性化と共に会発展に努力して参る所存です。どうか会員皆様にはより一層のご協力を願うものであります。恒例により会長が議長席につき議事の進行を図った。

(2) 議事について 議事録署名人の選任

坂上直哉・片山幸則両氏の指名があり各承諾した。次いで第一号議案・第二号議案・第三号議案を原案により諮ったところ、各議案は異議なしの発言により満場一致で可決承認された。第四号議案については議長一

任との声があり会長より新期役員の報告がありこれを承認された。選出された役員は下記に掲載の方々です。

平成14年度における事業は次の通り実施しました。

第14回2002函館aaca景観シンポジウム「港町函館の景観・港とひかり」の開催並びに第12回AACAA賞・第1回芦原義信賞表彰などにより美しい環境創出、aacaトーク、研究見学会等事業を各委員会を通し実施会機誌として会報刊行により会員相互の連携コミュニケーションを図った。なお各部会においても見学会等活動を実施した。

平成15年度活動の方針として本年度は協会設立15周年に当り各種実施の事業の他に懸案の建築・美術・工芸3分野合同展示会をはじめ各種記念事業を進めることとしました。

当面する課題として強力な会員増強方策のもと正・法人会員の拡大を図り会運営の健全化を高めることが協調された。

(事務局長 伊藤留雄記)

新理事 (任期平成15年5月23日から平成17年総会まで)

(社)日本建築美術工芸協会 平成15、16年度役員

平成15、16年度役員(理事・監事 敬称略)

会長(理事)	芦原義信	芦原建築設計研究所所長	(再任)
副会長(理事)	阪田誠造	(株)坂倉建築研究所最高顧問	//
//	加藤貞雄	茨城県近代美術館館長	//
//	澄川喜一	彫刻家	//
専務理事	中島昌信	建築家	//
理事	會田雄亮	陶芸家	//
理事	飯野毅一	美術コンサルタント	//
理事	宇津野和俊	情報委員会委員長/菊川工業(株)社長	//
理事	栄久庵憲司	(株)GKデザイン機構会長	//
理事	近江栄	日本大学名誉教授	//
理事	深澤重幸	(株)コトブキ社長	//
理事	古島誠一	運営委員会委員長/(株)石本建築事務所会長	//
理事	石井幹子	石井幹子デザイン事務所	//
理事	小倉善明	(株)日建設 都市建築研究所所長	//
理事	佐野吉彦	(株)安井建築設計事務所社長	//
理事	清水重男	(株)三菱地所設計取締役技師長	//
理事	村松映一	(株)竹中工務店専務取締役	//
理事	大野勝賢	(株)佐藤総合計画常務	(新任)
理事	岡本賢	(株)久米設計社長	//
理事	可児才介	大成建設(株)常務設計本部長	//
理事	小林治人	設景家	//
理事	日高單也	調査研究委員会委員長/日本大学教授	(再任)
理事	倉本真弘	事業委員会委員長/建築家	//
理事	玉見満	広報委員会委員長/大塚オーミ陶業(株)	//
理事	吉村忠雄	会員交流委員会委員長/東陶機器(株)顧問	(新任)
(理事25名)			
監事	矢橋信雄	矢橋大理石(株)	(再任)
監事	片山幸則	中央建材工業(株)	(新任)

(監事2名)
計27名

アピアランス



aaca会員
fiber artist
SATO SHIZUKO
佐藤 静子
千葉県市川市鬼高2-5-10
TEL 047-333-2911

「souttrance」
秋田県鹿角市洋風割烹「美ふじ」
110cm×130×10

ここ数年間個人的なテーマでタピスリーを制作してきたが、最近地域のパブリックアートに目覚めた。仲間とイベントを企画しながら、官・民・アーティストの協働により、街づくりで何が貢献できるかを模索中である。



aaca会員
日時計作家
ONO YUKIO
小野 行雄
東京都杉並区桃井1-17-11
TEL 03-5932-2664

「時鐘（日時計）」
国立天文台・三鷹
H:208cm

忙しい日々の中にホッとすると時をいかがですか。太陽の下、ほんの数分で大地が動いていることを感じ、大いなる自然と一体となっている自分を発見することでしょう。



aaca会員
造形作家
HOSOKAWA MASAHIKO
ホソカワマサヒコ
大阪府高槻市氷室町1-15-15
TEL 0726-95-2350

「影響しあう仲間達」
アート/ラダイス展（建築会館・建築博物館）
H150×W190×D4cm

「影響しあう仲間達」をテーマに、和紙（越前和紙）と漆の力をいっぱい借りて、一何を生み出すかーの次元で日々創作しています。



aaca会員
テキスタイル造形作家
AMEYAMA TOMOKO
雨山 智子
東京都目黒区東が丘2-3-20 須藤方
TEL 03-3795-4949

「UNE11～16」
ケアタウン成増 エントランスホール吹抜け
550×550×40/mm×6点

木の質感が豊かな老人施設に、植物的なイメージをモチーフとした作品を制作。

このようにパネルアップした一連の作品は、最近の柔らかい布による発表とともに、私の大事な分身である。

CONTENTS

協会設立15周年を迎えて	1
15年の思い出	2
aaca賞の思い出	3
トークレジメI、II	4
時代の草一輪	6
トピックス	8

■表紙デザイン

高部 多恵子

表紙の作品を専業しています。
事務局までお問い合わせください。
尚表紙のレイアウトは、広報委員会で行います
のでご了承下さい。

発行： 畿日本建築美術工芸協会
Phone 03-3457-7998
Fax 03-3457-1598
〒108-0014
東京都港区芝5-26-20
建築会館6F
URL: <http://www.aacajp.com>
E-mail: info@aacajp.com

郵便振替：00110-2-365085

編集：(社)日本建築美術工芸協会 広報委員会

委員長 玉見 満

副委員長 高部多恵子

北村孝昭、石田真人、山崎輝子

長谷川亨、瀬川秀之、佐田興三

事務局長 伊藤留雄

制作協力：中栄印刷工業株式会社